

変わる日本の「暮らし」と「まち」

多世代が健康に楽しく暮らせる
新たなニュータウンへの取り組み

愛知県春日井市
高蔵寺ニュータウン再生への取り組み
(2014年・平成26年)

阿部民子

text by Ranko Abe



illustration: Shigeyuki Sakata

心地よい春の陽気に恵まれた3月27日。愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンにある自然豊かな高森山公園で、ウォーキングイベント「高森山でツツジを見よう会」が開かれた。イベントには100人以上が参加。新型コロナウィルス感染症対策のため少人数のグループに分かれながら、標高206メートルの高森山をガイドさんの案内で散策。みずみずしい新緑や淡いピンク色のコバノミツバツツジ、可憐なスミレなど、里山の春を満喫した。

ニュータウンに50年近く住むという二人組の女性は「長くここに住んでいるのに、この山に登ったのは初めて。こんないいところが近所にあるなんて、知らなかった」と驚いた様子。近隣に住む男性は「毎朝、山をウォーキングして公園でラジオ体操するのが日課。近くにこんないい場所があるのはうれしいね」と笑顔で話してくれた。

このイベントは、地元のみちづくり活動を行うNPO法人高蔵寺どんぐりsとUR都市機構中部支



高森山頂上付近でガイド役の堀内理事長(左から3番目)からの解説を聞く参加者たち。

社の連携によって催されたもの。ウォーキングガイドも務めた高蔵寺どんぐりsの堀内理事長は「高森山は約50年前に山火事でハゲ山になりましたが、地元住民がどんぐりの苗木を植えて復活させ

ました。ところがその後放置され、常緑樹の茂る暗い森になってしまったのですが、我々有志が市と連携しながら、大人も子どもも自然と健康、憩いを感じられる里山にしようと、散策路の整備や下

(PR)

草刈りなどの整備管理を始めたんです。今回のイベントは、高森山を身近に感じ、健康促進やスポーツの場としてもっと利用してもらいたい、と開催しました」と語る。

回地活性化への多様な試み

名古屋駅からJR中央線快速に乗って、最寄りの高蔵寺駅まで約25分。名古屋市の北東、春日井市のゆるやかな丘陵地に広がる高蔵寺ニュータウン。1961年(昭和36)に計画作りが本格化し、1968年に入居がスタート。総面積約702ヘクタール、計画人口8万人以上という壮大な規模で、URの前身である日本住宅公団が開発を手がけ、日本三大ニュータウンのひとつに数えられる。

それから50年余り。当時入居した住民が徐々に高齢化し、子ども世代が巣立つなど、このまちにも少子高齢化の波が押し寄せている。現在もニュータウン内で多くの賃貸住宅を管理し、市と協力してニュータウンの再生を手がけているURは、活性化のためにさまざまな試みを始めている。UR中部支社市街地整備第2課長の松原弘

明が語る。

「かつてはベッドタウンとして名古屋に通う方が多かったのですが、現在はリタイアして地域で活動する方が増えています。地域に溶け込んでいる女性が多い一方、今まで会社勤めをしていた男性は地域コミュニティに馴染みの少ない方も多いのです。URでは、そうした方々も家の外に出て生き生きと元気に暮らし、活動できるコミュニティ作りにも力を入れています。今回のイベントもその一環で、どんぐりsさんの活動を知り、高森山が住民の方々の健康とスポーツの拠点となることを願って、お手伝いさせていただきました」

今後、散策路沿いの樹木に設置する樹名板作りのワークショップを開くなど、さまざまな活動を予定しているという。また、コミュニティの場作りとして、団地商店街などの空き店舗や集会所を改修し、コミュニティスペースとして自治会などに提供。幅広い世代が気軽に立ち寄れるコーヒースalonなどに利用できる取り組みも始めた。

誰もが健康に暮らせるまち

URのこうした動きは、春日井市の施策とも深く結びついている。市では2016年に「ほっとできるふるさとでありながら、新たな価値を提供し続ける、まち」であり続けること」を目指し、「高蔵寺リ・ニュータウン計画」を策定。次の10年を見据えた昨年度の改定では、ニュータウン内の高森台団地の再生と連携したスマートウェルネスなまちづくりを先

行プロジェクトとして位置づけた。それに対応し、URも高森山整備などさまざまな事業を通して、市との連携を強めている。「団地や周辺地域の価値や利便性向上のため、高森台団地の一部住棟を解体して、スマートウェルネスに役立つ健康施設や商業施設、憩いのための施設などを誘致する計画を進めています。第一弾として、健康施設を含むホームセンターを誘致予定です」と、UR事業推進課の大井涼介が説明する。「高森台の団地再生をきっかけに、新しい商業施設や住民の方々に入ってきていただきたい。そして、ゆくゆくは高蔵寺ニュータウン全体が、多世代の方々が交流し、健康で楽しく暮らすことのできるま

ちになってほしい。そのために、今後も行政や地域の方々と連携を強めていきたいですね」と松原。半世紀の時を経て、壮大なニュータウン再生への歩みが始まった。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

企画制作 新潮社